

令和2年度第5回千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会開催結果

- 1 日時：令和3年3月22日（月） 午後1時30分から3時30分まで
- 2 場所：ホテルポートプラザちば2階 ロイヤル
- 3 出席委員（委員総数26名中22名出席） （50音順）
赤木委員、稲葉委員、大薮委員、菊地委員、酒井委員、佐藤キヨ子委員、
助川委員、高橋仁美委員、田中委員、谷口委員、寺口委員、平川委員、
平山委員、廣岡委員、藤野委員、二見委員、眞鍋委員、谷上委員、山田晃爾委員、
米山委員、和田委員、渡辺委員

4 会議次第

1. 開会
2. 議題
 - （1）次期千葉県高齢者保健福祉計画案について
 - （2）介護サービス量の見込みと介護サービス基盤の整備について
3. 閉会

5 議事概要

（1）次期千葉県高齢者保健福祉計画案について

○事務局から「資料2-1」～「資料4」を用いて、次期千葉県高齢者保健福祉計画案について説明した。委員からの質問・意見等は以下のとおり。

（委員）

生涯大学校について、令和3年度中はずっと休校ということによろしいか。

（事務局）

生涯大学校を休校することについて、昨年の12月から今年の1月くらいにかけて検討した。ちょうど感染者数がピークのときであり、令和3年度中に完全にコロナが終息するのは難しいと予想した。ワクチンの接種にも数カ月かかることや、仮に年度の途中で再開できたとしてもカリキュラムが完全に消化できないことを考慮した結果、一年間休校という判断をした。

(委員)

P. 216 の「介護老人保健施設の開設支援」の目標について。このような開設目標が示されているが、これからは一般の高齢者の引き受けだけでなく、認知症の方もかなり増えているので、建物の構造も認知症の方に適した構造にしていってはどうかと考えている。そういった施設の開設を考えている方がいらっしゃったら、ぜひ老人保健施設協会に相談して欲しい。

また、現在コロナ患者が病院や老人保健施設で発生している事例があるが、ゾーニングに適した建築もあるので、そういった場合も相談いただきたいと思う。

(委員)

P. 217、218 の「認知症の人やその家族などに対する総合的な支援の推進」の目標部分でお願いがある。この目標は、P. 116 に記載ある取組の目標値となっている。

現在、認知症に関しては、「チームオレンジ体制整備」が非常に重要と言われているが、認知症サポーターを養成・活用するようなどころがあまり進んでいない。

認知症サポーターの養成は（全国で）1000 万人を超えているが、その方たちが活躍しているかが不明確であるということから、認知症サポーターの活用推進事業の中で、チームオレンジというのが出てきている。先ほど事務局から説明があったが、このチームオレンジが、令和7年度までに全市町村に設置することになっているので、これに向けて、自治体、県の方でかなりサポートする必要があると思っている。

チームオレンジの中身を見ると、企業向けのサポーター（職域サポーター）、認知症こどもサポーター（キッズサポーター）という言葉が入っている。

そのため、各サポーター事業については、目標値をそれぞれで定めて研修を実施するのは良いが、それぞれの研修はリンクしていることを意識してやっていただきたい。

(委員)

P. 40 の「口腔の健康づくり推進」のところで下の※部分の注釈は、P. 220 からの用語説明で、解説されていることから不要ではないか。

(事務局)

8029運動の用語説明は、巻末の資料の方に整理するという事で検討してまいりたい。

(委員)

先日、「認知症対策推進協議会」で出てきた意見に「新型コロナと認知症の関係」がある。

新型コロナによるこの自粛状況で外出制限がかかり、予防の方もデイサービスに行かないなど影響が出てきている。

そこで、現在も終息が見通せないため、高齢者保健福祉計画の中に入れていただきたい事項が三点あるので、お願いしたい。

一つ目は、県民向けに感染対策及び認知症のリスクが高まるという正しい情報提供をしていただきたい。そして感染予防に取り組むために、高齢者や地域住民が取り組むべきことをきちんと伝えて欲しい。

二つ目は千葉県内の行政向けに、コロナ対策の感染予防のリスクをできるだけ減らすために問題意識を持って情報発信をしていただきたい。

三つ目は、長期的な影響に関しては、国の方できちんと調査をしていくことが必要であることから、国に対して要望を出していただきたい。

（事務局）

今、指摘いただいた点は先日開催された「認知症対策推進協議会」でも聞いているところのため、何らかの形で計画の中に入れることを検討させていただきたい。

それから、先ほどの認知症サポーターの養成等については、企業向け、子ども向けも一体的に考えていきたい。

（委員）

基本施策Ⅱ－１⑥に「災害等への対応」とある。自然災害がこれからも多くあると聞いているが、災害に関する目標がない。

また、災害福祉支援チームのDWA Tには、登録のための研修があったと思うが、うちの会員の中でなかなか研修が受けられないと聞いている。研修受講にあたって選考基準というのがあれば教えてもらいたい。

（事務局：高齢者福祉課）

災害に関する目標について御指摘いただいたが、目標値を設定しにくいところがあった。ご質問のあったDWA Tの研修受講者数が設定できるかどうかというのは、担当課と協議を進めたい。

（事務局：健康福祉指導課）

DWA Tの件でご質問いただいたが、担当が異なるため、確認して皆さんの方へメールでお答えしたい。

(委員)

DWA Tの研修について、昨年度は大変ありがたいことに数百名の方から応募があり、その方達の研修を先にやらせていただいている。その研修も一度に終わらず、何度か分けて行っているのですが、新たに応募して受講することについては、現在止めている影響ではないか。

※後日DWA Tの研修について、健康福祉指導課へ聴取し以下の事項をメールで回答済み

○令和2年度は研修を3回実施したが、総定員150人に対し、700人以上の応募があったため、事務局がバランスのいいチームを組む観点から、受講生を選抜した。

○今年度受講できなかった方は来年度以降の研修の実施を予定している。

(委員)

「資料2-1」のパブリックコメントであった二つ目の意見について。「福祉ふれあいプラザ（介護実習センター）の運営」の取組がP.104に再掲されると思ったが、別の箇所か。

(事務局)

パブリックコメント意見をもって再掲を予定している。現在はまだ記載をしていない。御指摘のとおり、P.104の一番最後のところに掲載予定。

(委員)

用語集の方で一つ、「居宅療養管理指導」を加えていただきたい。また、千葉県独自のものとして「認知症コーディネーター」は掲載しないのか。

(事務局)

二点追加で記載したい。

(委員)

P.99上から4つ目のパラグラフに「県立保健医療大学～育成します」と記載がある。それから、P.217の38番に「県立保健医療大学の運営」について目標設定されている。

保健医療大学の学生さんから話を聞くと、幕張の方は設備がキレイだと聞いた。何年か前に仁戸名に行ったときは、これが県立保健医療大学なのかと驚いた。保健医療大学の学生さんとか卒業生の方とかいろいろ知り合いがいるが、とても熱意があって、リハ職の方も看護系の方も一生懸命やっている。お金のかかることでとても大変だと思うが、そういう学生さんたちが、今後千葉県で働いてもらえるような、設備をお願いしたい。

(事務局)

(医療整備課)

保健医療大学は、幕張と仁戸名にキャンパスが分かれている状態となっている。幕張の方は設備がキレイだが、仁戸名の方はおっしゃる通り、古いものをそのまま利用している。現在、仁戸名キャンパスの統合やあり方を含めて検討しているところで、建物も今後建て替えなどを考えながら運営しているので、時間はかかると思うが見直していきたい。

(2) 介護サービス量の見込みと介護サービス基盤の整備について

○事務局から「資料4」のP.172～P.208を用いて、介護サービス量の見込みと介護サービス基盤の整備について説明した。委員からの質問・意見等は以下のとおり。

(委員)

色々な推計値があって心配になっていることがある。例えば、P.174の「(1) 居宅サービス」の「①訪問介護」については、この3年間で要介護認定者数が12.1%の増加を見込んでいる。要介護認定を受けて、最初は訪問介護のサービスを必要とされる方が多いと思うが、この推計値が約130万回を見込んでおり、この見込み量の人材が本当に足りるのだろうか心配している。訪問介護はもちろん、施設の方も介護人材の確保を何らかの形で、行っていただきたい。今ヘルパーさんの年齢が上がってきており、現場でヘルパーさんが60代70代以上のところもあるので、サービス量の推計だけでなく、それをちゃんと担う人材育成をやっていただき、計画の中にぜひ記載していただきたい。

それから一つ先の議題で言い忘れたことがある。最初の方に、「地域共生社会の実現を目指し～」と記載されている。この部分が具体化されているのはP.43、44辺りかと思うが、この中で地域共生社会の必要性が書かれていない。そのため、地域共生社会でみんなが全世代的に一緒に安心・安全で暮らせる千葉県地域づくりという旨の、地域共生社会の説明文書を入れていただきたい。

P.44には「8050問題」等の世代を超えた問題について記載があるが、現在地域包括支援センターでも相談を受けたときに悩んでいる。ここに「8050問題」、「ダブルケア」の問題が書いてあるので、調査検討も必要であるという旨の文章を入れていただきたい。

(事務局：健康福祉指導課)

介護人材に関しては、「資料4」のP.92以降で「地域包括ケアシステムを支える人材の確保・育成・定着に向けた取組の推進」において、現状とそれから県が現在取り組んでいること、今後取り組んでいくことを記載している。訪問介護の方での人材不足は認識はして

いるが、これといった決定的な対策はないため、P. 99 から取組の基本方針で記載されている取組を一つ一つ実施していき、介護人材の不足解消に努めてまいりたい。

（事務局：高齢者福祉課）

地域共生社会について、何度か御意見いただいております、検討を重ねながら文章を書いているが、御指摘のあったような地域包括支援センターが地域共生社会にどう絡むかということとをそこまで書いてなかった。

地域包括支援センターも含めて地域共生社会について、記載を充実させて欲しいという内容だと思うので、それについては検討させていただきたい。何らかの形で書く方向で、進めたいと思う。